



堀越 道男 議員

質問

PCR検査に市独自の取組みは

答弁

広範囲に渡っての検査実施が望ましいので、県の無料検査キットの再開を待って、案内する

堀越議員の質問動画



議員

国の新型コロナウイルス感染症対策には三つの遅れがあり、一つ目は3回目のワクチン接種の遅れである。二つ目は検査体制の遅れである。これは、厚生労働省がPCR検査をすると擬陽性者が出るのと検査体制を抑制してきたためである。三つ目は医療体制、保健所体制の削減とその遅れである。県内に18カ所あった保健所は、9カ所に半減され、常総保健所もなくなった。

現在のオミクロン株は無症状の感染者が多いため、検査を拡充して陽性者を見つけ保護することが大事だ。県では、検査費用補助金67億円を予算化した。一日当たり1万7千5百件（医療機関1万件、薬局7千5百件）の需要に対して供給率は、わずか7%の3千件しかなく、2月5日に新型コロナウイルス感染症の急拡大に抗原検査キットが追い付かず停止になってしまった。外国では、コロナが収束した時期に集中して検査体制を整えている。

改めて、市として抗原検査キッ

トやPCR検査に万全の対策を図ることはできないか。

保健衛生部長

市としては、市内の7カ所の医療機関に補助をしてきた。新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、検査キットなどが不足するなか医療機関での検査体制を維持するため、県は無料PCR検査を停止した。このような状況では、市が独自に対応していくことは、非常に難しいものと考えている。

今後、県の無料検査が再開されれば案内していく。

議員

検査を受けることが一番の安心材料になる。笠間市、筑西市では2千円の補助を出して、PCR検査を勧めていた。このような市独自の施策は必要ではないか。

保健推進課長

常総市だけでPCR検査を実施しても効果は薄い。近隣の自治体や県、国と広範囲にわたって実施できることが望ましい。県も再開に向けて検討しているのでそれを注視していきたい。



中村 博美 議員

質問

「無事ですタオル」の全戸配布を

答弁

自主防災組織結成時には、防災士の指導を受けながら推奨していく

中村議員の質問動画



議員

地震が起きた発生瞬間から10分以内に助け合う「無事ですタオル」は、災害時に自分の無事を知らせるものである。私の住む根新田地区では、地震後、無事なら玄関外側に「無事ですタオル」を掛け、班ごとに決めた場所に各世帯一人ずつが集まる。集まる時には、各家に「無事ですタオル」が掛かっているかを確認している。タオルの掛かっている家がなければ、10分以内に集まった人達が助けに行くことにしている。この自主防災組織の「無事ですタオル」のおかげで、私は安心して根新田に住んでいられると感じる。

当市の自主防災組織率について伺う。

市長公室長

令和4年2月現在での組織率は61・8%で、今もなお、発足を目指す地区もある。小学校単位での自主防災組織の結成に向けて各地で勉強会を開始している。

議員

自主防災組織における地震対策について、当市にはどのような取

組みがあるのか。

市長公室長

地震に対する地区防災計画の作成支援や「無事ですタオル」の訓練で直接根新田地区に防災講演を依頼している地区もある。

議員

平成7年の阪神淡路大震災では生き延びることができた人の8割が家族や近所の住民等によって救出されている。家の中で被災している人がいるということが判断できる「無事ですタオル」の全戸配布に取り組んだ市もある。それを踏まえたうえで、当市において「無事ですタオル」を全戸配布する考えはあるか。

市長

私自身も根新田地区の「無事ですタオル」訓練に参加し、本当に有効性を感じた。地域の連携、班単位での結束力、絆があつてこそ初めて「無事ですタオル」の有効性が発揮される。新しく自主防災組織が結成される際には、防災士の皆さんの指導を受け、市としても、ぜひ「無事ですタオル」を推奨していきたい。